くすり博物館だより

VOL. 63
2010年（平成22年）5月

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY

内藤記念くすり博物館
〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1
Tel:(0586)89-2101 Fax:(0586)89-2197
http://www.eisai.co.jp/museum/

平成22年度 企画展「綺麗の妙薬 ～健やかな美と薬を求めて～」 2010年5月21日（金）～2011年3月27日（日）

草紙洗小町　住吉広行画／江戸中期　小野小町は平安時代の代表的な美人で、絵の題材にされた。

内藤記念くすり博物館では、平成22年度の企画展として「綺麗の妙薬～健やかな美と薬を求めて～」を開催します。

いつの時代も、人々は健康で若々しく過ごしたい、美しくありたいと願ってきました。古代では、病気をもたらす悪霊をよせつけないように、顔や体に草木の汁で色やにおいをつけました。そしてしだいに、美しく装うための化粧へと移り変わりました。江戸時代になると、女性特有の病気を治す婦人薬はもちろん、健やかな美を求めてさまざまな洗顔料や化粧水、白粉などが売り出されました。

今回の企画展では、昔の書籍、化粧品・化粧道具、および婦人薬とその広告を通じて、女性が求めた綺麗になる化粧や薬の世界をご紹介します。

健やかに美しく

芍薬（シャクヤク）

牡丹（ボタン）

百合（ユリ）

美しい花には心を癒したり華やかな気持ちにしてくれる役割だけでなく、薬草としての側面を持つものもあります。女性の美しさを表現する言葉として、「立てば芍薬、座れば牡丹、歩く姿は百合の花」という慣用句がありますが、この3種類の植物はどれも婦人薬として用いられています。このほか、婦人病の代表的な薬草には、当帰（トウキ）、紅花（ベニバナ）、蕃紅花（サフラン）などがあります。

古典から探る美容と健康

平安時代の鍼博士・丹波康頼は、遣隋使や遣唐使が持ち帰った約200種類の貴重な医学書から役立つ知識を引用し、医学全書「医心方」（全30巻）をまとめました。これは日本で最古の医学書で、984年（永観2）に当時の花山天皇に献上されています。

「医心方」では、巻4に毛髪や頭部、顔面の疾患について、巻26の「仙道篇」に不老長寿や若返り方法、巻27に導引（現代の体操やマッサージなど）の方法、巻30に美容に役立つ食べ物についての記載があります。

医心方　丹波康頼撰　吉田久兵衛刊　安政時代の復刻版

都風俗化粧伝
佐山半七丸著　速水春暁斉画
1813年（文化10）
右図は、低い鼻を高く見せる方法を紹介しているページである。

江戸時代になると、1813年（文化10）に、洗練された女性になるためのノウハウが書かれた「都風俗化粧伝」が刊行されました。この書籍には、具体的な化粧方法だけでなく、肌を白くする薬やさめ肌を治す薬についての記載があったり、身嗜みや立ち居振る舞いが美しく見える方法も紹介されています。

また、挿絵が多く、当時美人と考えられた女性の顔立ちや身なりがわかるようになっています。

女性の薬

女性は生理の時、妊娠・出産時、更年期などに体調を崩すことがあります。このような女性特有の病気の時には、医師にかかることもあれば薬屋で購入した薬を用いることもありました。江戸～明治時代の婦人薬は、「血の道薬」「月やく下し」「子宮病の良剤」というキャッチフレーズで販売されました。有名な婦人薬には、千葉実母散、喜谷実母散、中将湯、蘇人湯などがあります。

（置看板）月日丸
名古屋・本町（現在の名古屋市中区）で販売されていた薬の看板。畳敷きの店内に設置するタイプのもの。

（紙看板）蘇人湯
美濃表佐（おさ：現在の岐阜県不破郡垂井町）にあった飯沼徹因庵で販売されていた紙製の看板。薬の名前が読めない字形を逆に宣伝とした。

素肌をみがく

江戸時代には銭湯が発達し、人々は入浴時に糠袋で体や顔を洗いました。夏季には庭先でたらいで行水することもありました。洗顔や歯磨きを日常的に行う人が増えたのもこの頃といえるでしょう。湯上りの汗取りとして天花粉（てんかふん）を用いることも広まりました。

生活にゆとりが出てくると、庶民の家では自家製のヘチマで化粧水を作ったり、都市部では市販の化粧水や白粉（おしろい）を用いるようになりました。白粉の広告には、「色を白くする」「肌理（きめ）を細かくする」だけでなく、「はたけ（皮膚病の一種）やそばかすに効く」「できものの跡を早く治す」など、薬のような効能が書かれているものもありました。

白い肌は「色白は七難かくす」というように、白さが顔のつくりや若々しさを補うだけでなく、「労働による日焼けがない＝上流階級」というイメージも持ち合せていました。家事や仕事のため、外で働くことの多い女性は、外出することの少ない上流階級の女性の肌の白さに憧れていたようです。

仙女香　香蝶楼国貞画／江戸後期

仙女香は、歌舞伎の名女形とされる三代目・瀬川菊之丞の俳号「仙女」にちなんだ名前の白粉である。背景の看板内にさりげなく名前が書かれている。

華やかに彩る

現代女性の化粧品はカラフルで、淡い中間色から光沢のあるパールやラメを混ぜたものまで色彩も豊富ですが、江戸時代は白粉の白色、紅の赤色、髪やお歯黒の黒色という具合に、三色を基本色としたものでした。

白粉は顔だけでなく、首筋や襟足、胸元にも塗るのが一般的でした。白粉には、京白粉と呼ばれる鉛を原料としたものと、伊勢白粉・御所白粉・軽粉（はらや）と呼ばれる水銀白粉の2種類がありました。安価な鉛白粉が多く用いられましたが、その常用は鉛中毒を引き起こしました。軽粉は伊勢（現在の三重県）近郊で作られ、伊勢参りの土産として有名になりました。

明治時代になると、薄化粧用白粉や濃化粧用白粉、香りつきの白粉と化粧下地が登場しました。明治末期には欧米からクリームが輸入され、昭和時代には国産のクリームが製造されるようになりました。

口紅は、婦人薬や染料としても用いられる紅花から色素を抽出して製造されました。大変高価だったため、紅猪口（べにちょこ）や蛤の貝殻製容器の内側に薄く塗られた紅を、筆や指につけて唇に伸ばして用いました。

お歯黒は五倍子（ごばいし）の粉をお歯黒水に溶かした黒色の液を歯に塗る風習です。平安時代から貴族階級では男女ともに行う風習でしたが、江戸時代には既婚女性の風習となりました。五倍子はヌルデの木の虫こぶの粉で、「ふしの粉」と呼ばれました。お歯黒水は釘などの鉄片を茶や酢に入れたもので、酸化が進んで褐色になったものを用いました。歯磨きは房楊枝（ふさようじ）と呼ばれる柳の枝を短く切り、その先端に房のように切り込みを入れたものを用いました。

紅猪口　年代不詳

盃の内側に紅が塗られている。蓋はなく、使用しない時は伏せておいた。

お歯黒「ぬれからす」　明治時代

洋装化とともにお歯黒の慣習は衰退するが、粉を溶いて簡単に塗ることができるインスタントお歯黒も市販されていた。

房楊枝　明治時代

柳などの枝をさばいたもので、現在の歯ブラシにあたる。

企画展図録のご案内

定価１，０００円

とぴっくす

常設展の展示替えを行いました

内藤記念くすり博物館は1月26日（火）にリニューアルオープンしました。

今回のリニューアルのテーマは「来館者の方々に感動を」です。展示館入り口は、森をイメージした造りになっており、幻想的な世界を演出しています。展示の各コーナーはテーマカラーで色分し、メリハリを効かせました。さらに展示品を見やすく配置し、解説もより分かりやすい内容にしました。また、解説文のすべてに英語の翻訳を併記しました。

これを機会に是非とも、新装となりました内藤記念くすり博物館にご来館いただきますよう、スタッフ一同お待ち申し上げております。

エントランス部分。病魔よけの白沢（はくたく）が皆様をお迎えします。

展示のテーマごとにコーナーがテーマカラーで色分けされて、見やすい展示となっています。

すべての解説パネルやキャプション（解説板）に、英文解説をつけました。

「くすりを商う」のコーナーに看板・広告・明治時代の薬など新資料を追加しました。

「近代の医薬」のコーナーを拡張し、人類に多大な貢献をした代表的な薬品を紹介しています。

「くすりを作る」のコーナーでは、DVDで丸薬作りの様子が見られます。

ウェブサイト【くすりの博物館】http://www.eisai.co.jp/museum リニューアル後の展示室の様子は、博物館のウェブサイトでもご覧いただけます。

「ヨミドクター」においてコラム連載開始

読売新聞のウェブサイト中の会員制サイト「yomiDr.（ヨミドクター）」（http://www.yomidr.jp/）は医療、介護、健康情報の総合サイトです。

このサイト内で「薬と健康　なるほどヒストリー」と題して、当館学芸員が執筆している医薬の歴史に関するコラムを読むことができます。コラムのページは無料でお読みいただけます。（その他一部有料のページがあります。）

コラムの第１回は「現代の予防医学に通じる『養生訓』の教え」、以下「気の流れを感じて」「ウナギに梅干…食い合わせという知恵」と週１回更新し、１年間連載する予定です。

内藤記念くすり博物館では、常設展や企画展、ウェブサイト「くすりの博物館」を通じて医薬の歴史や文化について知識や情報を提供していますが、このブログでは、個々の資料をより詳しく紹介したり、健康に関する年中行事を取り上げます。ぜひ一度アクセスしてみてください。

■白沢ストラップが好評です

病魔よけの神獣・白沢（はくたく）の小さなストラップを500円で販売しています。本体部分の幅は4cmです。くすり博物館来館のお土産としてぜひお買い求めください。

◆◆資料・図書ご提供者ご芳名◆◆

片岡宏、小林公子
武田科学振興財団
株式会社ツムラ
ホーユー株式会社
株式会社八神製作所

～ありがとうございました～
（敬称略／五十音順）

内藤記念くすり博物館

開　　館	9:00-16:30
休　　館	月曜日・年末年始
館　　長	永縄厚雄
学 芸 員	稲垣裕美（編集担当）
学芸員・司書	野尻佳与子　伊藤恭子
庶　　務	森田麻起子 沼田望（見学受付） 田中康恵（見学受付）
薬用植物園（栽培管理）	苅谷辰行　亀谷芳明 石崎順弘
アドバイザー	逸見誠三郎